

生きものいっせい調査 2019 について【指導用資料】

いつも「生きものいっせい調査」にご協力くださりありがとうございます。「生きものいっせい調査」は、2015 年度より沖縄県が実施している、小学 4～6 年生対象の生きものアンケート調査です。

みなさんは、アオカナヘビを見たことがありますか？アオカナヘビには、ジューミーなどさまざまな方言名がありますが、方言名がたくさんあるということは、それくらい身近な生きものだったということ。そんなアオカナヘビですが、最近は減っているといわれています。

沖縄県は、さまざまな生きものが生息する生物多様性のとても豊かな島ですが、アオカナヘビのような在来種（もともといた生きもの）が減っているとか、外来種（人が持ち込んだ生きもの）が問題になっているといった話も耳にします。でも、アオカナヘビが今どこにどれくらいいるのか、心配されている外来種がどこまで広がっているのか、実は分からないことだらけ。そんな身近な生きものの変化を児童のみなさんに調べてもらい、記録していこう、というのが「生きものいっせい調査」です。

調査方法は、アンケート用紙（同封のカラーの横長の紙）に書かれている通り、夏休みに、児童を対象の 8 種類の生きものを探してもらい、アンケート用紙内面の「生きものさがシート」に記入してもらいます。先生方にはアンケート用紙の配布と回収をお願いします。

結果は校区ごとに集計するので、児童のみなさんには学校や家の近く（校区内）で探すように指導してあげてください。校庭や通学路で見かけたかどうかでも構いませんので、なるべく多くの児童が提出してくれるよう、ご協力お願いいたします。

沖縄県にはたくさんの島があり、島ごと、地域ごとにいろいろな生きものがいます。だから、探しても見つからない生きものもいると思います。でも、対象種があまり見つけられなくても、がっかりしないように、児童のみなさんに伝えてあげてください。生きものの分布を調べるには、「いなかった」という情報もとても大切です。たくさん見つけた方がいいというわけではありません。それよりも、生きもの探しを楽しみ、身近な生きものに対する関心を育んでもらえればと思います。

対象種のグリーンアノールは、特定外来生物に指定されており、外来生物法により飼育や移動が禁止されています。人に危害を加えることはありませんが、見つけても持って帰ったりしないようにご指導ください。

今回アンケートをお願いする生きものについて、簡単にまとめました。先生が児童のみなさんから質問を受けた場合などの参考にして下さい。

1. アオカナヘビ類

方言名：ジューミー、チャールー、アンダチュー、マースケーなど

概要：アオカナヘビ、サキシマカナヘビ、ミヤコカナヘビの 3 種がいる。アオカナヘビが沖縄島や久米島等およびトカラ列島と奄美諸島、サキシマカナヘビが八重山諸島、ミヤコカナヘビが宮古諸島に生息し、いずれも固有種（世界中でその地域にしかいない種）。アオカナヘビのオスは茶色っぽい緑色で、体の側面がこげ茶色。メスと子どもは全身緑色。雌雄ともに体の横に白い線がある個体が多い。サキシマカナヘビ、ミヤコカナヘビは体側の白線はなく、雌雄ともに緑色。アオカナヘビは約 25cm、サキシマカナヘビは

約 30cm、ミヤコカナヘビは約 20cm。しっぽが長く、しっぽを押さえるとすぐに根元から切れてしまう。切れたしっぽはしばらく動くので、アオカナヘビの捕食者はそつちに気を取られてしまい、本体は逃げおおせる。ミヤコカナヘビは絶滅危惧 IB 類、また小浜島・黒島のサキシマカナヘビは絶滅のおそれのある地域個体群とされている（レッドデータおきなわ 第 3 版）。ミヤコカナヘビは、2019 年 6 月 11 日に県指定天然記念物に認定された。これまでの生きものいっせい調査で、減少が著しいと思われていた地域でもまだ生息地が残っていることがわかってきている。特にミヤコカナヘビについては、生きものいっせい調査をもとに琉球大学が調査を実施し、新たな生息地の発見につながっ

た。

食べ物: 昆虫やクモなど。

生息環境: 林縁や畑、草地、家の庭、御嶽などの木や草本の上、地面など。

似ている生き物: キノボリカゲ類、グリーンアノール

2. キノボリカゲ類

方言名: グリーンバンバン、キノボリサンペー、アタク、キータンジョーなど

概要: オキナワキノボリカゲ、サキシマキノボリカゲ、ヨナグニキノボリカゲの 3 亜種がいる(亜種: 地域によって色や形態に違いがあるが、別種にするほど大きな違いではない場合、亜種として区別する)。オキナワキノボリカゲが奄美諸島、沖縄諸島、サキシマキノボリカゲが宮古諸島、八重山諸島、ヨナグニキノボリカゲが与那国島に分布し、いずれも固有亜種。体長 16~25cm。アオカナヘビよりも顔が角張って、頭や背中の中がギザギザ。手足やしっぽは細長い。体表はザラザラしている。色は緑~茶色で、しっぽが緑と茶色のしましま。オス同士がケンカをするときは腕立て伏せのような動きをする。木の幹をらせん状に登って逃げる習性がある。オキナワキノボリカゲは絶滅危惧 II 類、サキシマキノボリカゲとヨナグニキノボリカゲは準絶滅危惧種(レッドデータおきなわ 第 3 版)。

食べ物: 昆虫やクモなど。

生息環境: 森林や林縁部、公園、御嶽など。木の上にいることが多いが、地面にいることもある。

似ている生き物: アオカナヘビ類、グリーンアノール

3. グリーンアノール

方言名: 特になし

概要: 体長 12~20cm。背中はあざやかな緑のことが多いが、まわりに合わせて体の色を変え、茶色っぽいこともある。背中に白いすじが入ることもある。あごの下やおなかには白い。目の周りがアイシャドウのように青い。オスはのどにピンク色ののど袋(デュラップ)をもち、求愛や威嚇のために広げて見せるが、普段はたたんでいて見えない。日本の侵略的外来種ワースト 100。小笠原諸島では、本種

の捕食によって希少な昆虫類が激減しているといわれている。沖縄県では今のところ沖縄島中南部と座間味島に分布しているが、沖縄島北部やその他離島への分布拡大が懸念されている。特定外来生物に指定されており、飼育や移動は禁止されている。

食べ物: 昆虫や小型のは虫類など。

生息環境: 林縁や民家の庭木、低木林、畑の周辺などの木の上。日中は日当たりのいい場所で日光にあたり、夜間には樹木の枝や葉の隙間などの狭いところで休息する。

似ている生き物: アオカナヘビ類、キノボリカゲ類

4. ゴマダラカミキリ類

方言名: カラジキュー、クンプヌギームシ、ダキムシ、キークイムシ、ハラズイケ、クワークラサなど(すべてカミキリムシの総称と思われる)

概要: 沖縄県には、オオシマゴマダラカミキリ、ゴマダラカミキリ、タイワンゴマダラカミキリの 3 種が生息するとされ、いずれも外来種の可能性がある。3 種の外見は互いに似ており、識別は困難。与那国島に生息するものはヨナグニゴマダラカミキリとされていたが、最近の研究により、与那国島に侵入したタイワンゴマダラカミキリである可能性が指摘されている。オオシマゴマダラカミキリとゴマダラカミキリは沖縄島に生息し、タイワンゴマダラカミキリは沖縄島、石垣島、宮古島(および与那国島)に生息する。いずれも全身が黒く、背中に白い斑点を持つ。触角は、各節の根もとに青白い毛が生えているため、白と黒のしましまに見える。腹側は青白い細かい毛で覆われている。体長 25mm~40mm。シークワサーなどの柑橘類の害虫として知られているが、センダン、イタジイなどさまざまな樹木に産卵し、幼虫が内部を食べるとともに、成虫もこれらの樹木の枝や葉を食べる。

生息環境: 果樹園や公園などの木の上

似ている生き物: キボシカミキリ(地域によって模様がさまざま、ゴマダラカミキリに似ているものもいるが、斑点が黄色いことで区別できる)

5. ハシブトガラス

方言名: ガラサーなど

概要:全身光沢のある黒色の大型の鳥。全長は 56cm 程度。沖縄で「カラス」と呼ばれている鳥は普通ハシブトガラス。外で弁当などを食べていると狙ってくることもあるので注意。雑食で、木の実や虫なども食べる。沖縄島では北部に多かったが、最近は南部でも増えてきている。夜は森林で群れになって眠る性質があり、夕方にカラスが集まってくる森をガラスーグムイと呼ぶ地域もある。沖縄島や周辺離島、宮古島の亜種をリュウキュウハシブトガラス、八重山諸島の亜種をオサハシブトガラスと呼ぶ。

生息環境:公園や市街地などどこにでもいる。樹上や電柱の上、路上。夜は森林で眠る。

似ている生き物:特になし。(ハシブトガラスよりややくちばしの細いハシボソガラスが沖縄島等で確認されているが、まれである。)

6. ゲットウ

方言名: サンニン、ムーチーガサなど

概要:高さが 2~3m ほどになる大型の多年生草本。葉は細長く光沢があり、独特の香りがあるためムーチーを包むのに使われる。白色で先端がピンク色の花が、ぶどうのように房状に咲き、下向きに垂れ下がる。その後、花があったところにオレンジ色の実がつく。

生息環境:野原や公園。花壇などへの植栽も多い。

似ている生き物:クマタケラン、アオノクマタケラン、イリオモテクマタケラン(いずれもゲットウと似ているが、花や実が上向き)

7. オキナフスズメウリ

方言名: ヤマゴヤー

概要:つる性の一年生草本。直径 2cm ほどの球形の果実は緑色から赤色に熟し、白い縦じまがある。果実や根には毒があるとされる。葉は 5~7 つに裂け、表面にざらつきがある。小さくて淡い黄色の花が咲く。

生息環境:石灰岩地に多いとされる。やぶや林縁。

似ている生き物:カラスウリ類(葉の形は似るが、実が楕円形だったり、縦じまがぼやける)

8. ハイロテントウ

方言名:特になし(カーミーグワーなどがテントウムシの総称だが、ハイロテントウにも使うのかは不明)

概要:灰色のテントウムシ。黒い斑点がある。体長 6.2mm 前後。主にギンネムキジラミを食べる、北アメリカ原産の外来種。県内各地で見つかっている。

生息環境:ギンネムの木によくいるが、その他の植物にすることもある。

似ている生き物:特になし。

コラム:外来種の食物連鎖

ハイロテントウはギンネムキジラミを食べ、ギンネムキジラミはギンネムを食べます。これらはいずれも外来種で、もともと沖縄にはいなかった生きものです。沖縄県にはたくさんの外来種が定着していて、中にはこのように外来種同士で食物連鎖の関係ができています。

ギンネムキジラミって？

ギンネムにつく 2mm ほどの小さな虫。緑~黄色。幼虫、成虫ともにギンネムの汁を吸って育ち、ギンネムの新葉や若い茎に産卵する。ギンネムキジラミにより、ギンネムは枯死することもある。ハイロテントウをはじめ、さまざまなテントウムシに食べられる。

ギンネムって？

南アフリカ原産の外来種で、沖縄では 3~5m のものが多い。白いポンポンのような花が咲く。マメ科で、小さな種子がたくさん並んだサヤエンドウのような果実をつける。茎や葉にミモシンという毒成分を含み、動物が食べると毛が抜けるといわれている。成長障害や不妊などを引き起こすこともある。またミモシンは他の植物の生育を阻害する作用がある。さらにミモシンにより虫に食べられることもないと考えられているが、ギンネムキジラミはミモシンを分解することができるのでギンネムを食べることができる。公園や道路脇、耕作放棄地などさまざまなところに生えている。